

2022年5月10日

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

出口 康夫 (京都大学 大学院文学研究科 教授)

2. 課題名

「スマートシティ」の全体論的・個別的 ELSI に関する企画調査

3. 実施期間

2021(令和3)年10月1日 ~ 2022(令和4)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、世界各地で建設が進められているスマートシティを対象として、AIを活用した個別の先端科学技術にかかる個別的 ELSI と、スマートシティがもたらす人間の「生」の変容に関わる全体論的 ELSI とを視野に入れ、これら二つの ELSI の諸相を明らかにすることを目標として実施されたものである。本プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、(1)本課題が取り組もうとするスマートシティの定義や概念の明確化、(2)「個別的 ELSI」と「全体論的 ELSI」の具体的検討と関係性の整理、(3)スマートシティに関する ELSI の議論の国際的水準を踏まえた仮説構築、などの点の強化を期待した。

企画調査の結果、文献調査や国内のフィールドワークによる実態調査、ロボットやデジタルツイン、ITによる意思決定支援など個別技術の ELSI 論点の抽出など、スマートシティに関する基礎調査と理論面の検討がなされた。また、スマートシティの多義性とタイポロジーを詳細に分析するなど仮説構築に向けた検討を進めており、本企画調査の目標は、一部残る課題はあるが概ね達成したと評価する。

一方で、全体論と個別技術・個別論点とを往還する ELSI/RRI 研究としての課題設定については、より具体的な検討が必要だと思われる。社会インフラの包括的な IT 化への取り組みとして、CPS (Cyber-Physical System) などとの比較検討も行いながら、スマートシティの ELSI の本質とは何かという問いにも踏み込む、意欲的、かつ具体的な研究開発構想の枠組みの設定を期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は2022年3月末時点)